

採用担当者のハートをグッとつかむ面接とは？

あなたの面接力をバージョンアップするための秘訣

国立大学法人・愛媛大学・客員准教授(教育・学生支援機構 所属)
トータル・エデュケーションズ株式会社 代表取締役
プレゼンテーション専門コンサルタント
田中省三氏

面接官の印象に残るように話さなければと分かっている、当日は緊張と不安で思う通りにはいかないもの。ここでは、ビジネスのプロである大手企業の経営者たちにもプレゼンテーションを教えている、プレゼンテーション専門家の田中省三氏に、面接官の心をつかむ自分の見せ方について語ってもらう。文中で紹介していただいている「PREP法」などは、これから生涯あなたの役に立つことだろうし、しっかりと面接力を鍛えれば、自信と余裕を持って面接に挑むことができるはずだ。

I 一面接までたどり着ける履歴書やエントリーシートとは？

●「採用される人」と「採用されない人」の違いは何か？

私は大学生にプレゼンテーションやコミュニケーション・スキルを教えています。そのせいか、就職活動中の学生の相談を受けることが多いのです。その時に相談内容として多いもののひとつが、「履歴書やエントリーシートは、どのように書いたらいいのでしょうか?」「面接ではどのように受け答えをしたらいいのでしょうか?」というものです。

確かに、履歴書やエントリーシートを提出した段階で、落とされてしまっただけで、面接までたどり着けません。

ここでは、①まずは、面接までたどり着ける履歴書やエントリーシートを書けるようになること、②面接ではどのようにすればいいかの、2点について解説します。

まずはぜひ一度「採用担当者は、どのようにして履歴書を読むのだろうか?」ということを考えて下さい。

「採用担当者の立場」から考察してほしいのです。

担当者が読む履歴書の量はどれくらいでしょうか?おそらく、短期間に膨大な量を読むはずで、

人事担当者は、履歴書やエントリーシートという限られた情報から、応募者の書類作成能力、プレゼンテーション能力、キャリア、技術力、意欲、熱意、人柄…などを推察するのです。もしあなたの履歴書がごく普通のものだったら、山のように積み上げられた履歴書の中に埋もれてしまいますよね。その結果、最悪の場合、履歴書だけで落とされることもあるかもしれません。

では一体どうすればいいのでしょうか?

●一番のポイントは何でしょうか?

履歴書を書く時に一番大切にしてほしいのは次のことです。

★採用担当者が「ぜひこの学生に会いたい!」と思う、興味を引く履歴書やエントリーシートを書くことです!

読み手が読みやすい表現をすることは、もちろんのことです。

ただ、それだけでは大量に送られてきた履歴書の山の中で、採用担当者の目に留まる可能性は低いでしょう。

ここでひとつ想像してほしいのです。

プロフィール

神奈川県鎌倉市在住。国立大学法人・愛媛大学・客員准教授(集中講義のみ担当)。トータル・エデュケーションズ株式会社 代表取締役。プレゼンテーション専門コンサルタントとして、大手一部上場企業～中小企業、各種団体で企業研修や講演・セミナーを行なう。一方で、大学生にプレゼンテーション・スキルやコミュニケーション能力向上のための授業を担当。WBA(WEDDING BUSINESS ACADEMY)セミナーでは、「お客様の心をグッとつかむプレゼンテーションの極意」という演題で熱弁を奮う。著書に「あなたが変わる【話し上手】の法則」(中経出版)
※ 全国各地から参加者が集まるセミナー「プレゼンテーションの極意」の詳細は、
<http://www.tanekashozo.com/>



自分が、採用担当者や経営者だったら…

採用したくない人はどのような人？

- 暗い印象がある
- あきっぽい性格
- 何でも自分優先

絶対採用したい人はどのような人？

- 笑顔がステキ、明るい印象
- 地道に努力できる
- 協調性があり、人との和を大切に

内定チャレンジシート

「自分が採用担当者だったら、どのような履歴書やエントリーシートが目に残るだろうか？」

「自分が社長だったら、どのような人物を採用したいと思うか？」

いかがでしょうか？

「自分は学生だから、そのようなことは分からないよ…」

そう思うかもしれませんが、でも、想像でもいいので、ぜひこの観点から考え抜いてほしいのです。

一言で言うと、採用担当者や経営者が「ぜひ採用したい!」と思う履歴書を書けばいいだけなのです。

でもこれだけでは抽象的ですね。もう少し具体的なこともご提供しましょう。

●まずはネタを書き出そう

それでは、「内定チャレンジシート」を作ってみましょう。まずは紙を一枚用意して、一番上に横書きで「自分が採用担当者や経営者だったら」と書いて下さい。そしてその下に、真ん中に縦に線を引いて、左側の上に「採用したくない人物はどのような人？」と書き、右側の上には「絶対採用したい人物はどのような人？」と書くのです。

そして、まず左側に思いついたことひとつ書き、それを右側のプラスのことへ書き換えましょう。

このワークをまずドンドンやってください。できれば数十個書き出しましょう。一人では思いつくことに限界があるので、友人達と何人かで一緒にやってみると効果は抜群です。

そして、ある程度書き出せたら、右側に書いたことをゆっくり眺めて下さい。そして自分が一番優先したいことを3つほど決めてみるのです。

次に、その3つのことを実現するために、今日から何を始めるかを考え、書き出していくのです。

つまり、採用担当者や経営者が採用したいと思う人物になるために、具体的なことを書き出し、実践していくのです。

履歴書を書く時にも、面接で話す内容をまとめる時も、このシートの右側に書き出したことを参考にしながら下書きの文章を作っていくのです。

たったこれだけですが、効果は抜群です。ぜひ試してください。

●履歴書チェックポイント

★ 全体を読み返して、セールス・ポイントとエピソードの間にズレや不一致がないか点検してください。

★ 次の観点で最後にもう一度チェックしましょう。

自分が採用担当者だったら、この履歴書を読んで「この人に、ぜひ会いたい!」と思うか?

★ 提出直前に書くのではなく、余裕を持って書きましょう。そして書いた翌日自分で読み返して何度も書き直しましょう。そうすることで自分の履歴書を客観的に見ることができます。

★ 自分では自分のことが意外に分からないもの。家族や先生、信頼できる友人に見てもらい、フィードバックをもらうのも大切です。

★ もし、以下の項目の記入が求められた場合は、このポイントに注意しましょう。

(例)【ゼミや専攻などの研究テーマ、または得意科目の内容など】

(注意点) テーマや科目名だけではなく、自分がどのようなことを学んでいるのかを、具体的に説明しましょう。ただし、自分の専攻でしか使わないような専門用語などを多用しすぎると、採用担当者とその専攻の専門家ではない場合、理解できないことが多いですから、自分だけしか分からない独りよがりの内容にならないようにしましょう。最大のポイントは、読んでくださる方のことを考えて、易しく分かりやすい文章にすることです。

皆さんの履歴書が、一層光り輝くものになることを祈っています。

II 面接対策の極意とは?

●効果的な練習方法

友人と数人で次のような練習をすると、非常に効果的です。一人が「面接を受ける役」になり、残りのメンバーが「面接官役」をします。面接官役になった人は、学生に対して質問を用意するのです。実際に、どこか教室を借りて机とイスをセ

ットして、実際の場面に近い状態で練習してみましょう。

面接官役をすることで、どのような質問をしたいか、自分ならどのような学生なら採用したいか、どのような学生なら断りたいかがよく見えてくるのです。その練習の時に書き出した質問をみんなを集めて、それにどのように答えればいいのか、知恵を出し合しましょう。

自分が話している場面を、ビデオで撮影して、友人たちと批評をし合うのも効果的です。

●自己PR・自己紹介の効果的なやり方

次のような順番で、自己PR・自己紹介の台本を作っておきましょう。自分の強みを端的に表現するには、準備が何よりも大切です。下記のフォーマットに従い、ネタを書き出してみましょう。

- 1 過去(今まで自分がチャレンジしてきたこと・頑張ってきたこと・成し遂げたことは?)

特に、「自分が今までぶつかった壁」と、「その壁を、どのようにして乗り越えてきたのか」をわかりやすく簡潔に述べましょう。

- 2 現在(いま自分が熱中していること・打ち込んでいることは?)

壁を乗り越える体験を通じて、何を学び、どのように成長したのか?そして今は何にエネルギーを注いでいるのか?

情熱を込めて語りましょう。

- 3 未来(今後、情熱を傾けて取り組んでいきたいことは?将来の夢は?)を語る。

就職することは目標ではなく、通過点でしかありません。就職してからの人生をどのように送りたいのかを、人事担当者のハートをつかむように精一杯語りましょう。

質問に対して簡潔に答える方法とは?

PREP法という便利なものがあります。

下記のフォームに従って答えると、自分の言いたいことを簡潔に表現できます。

- ① **Point (ポイント・意見)** 一番伝えたいことを最初に述べましょう!
- ② **Reason (理由)** ⇒ 「その理由は…」 「なぜなら…」 理由も明確に!
- ③ **Example (具体例)** ⇒ 「たとえば…」 具体例も添えましょう。
- ④ **Point (ポイント・意見)** をもう一度繰り返す (①とは別の表現で、簡潔に!)

面接官役をしたときに考えた質問に対する答えを、このPREP法で答える練習をしておけば、鬼に金棒です。最初は不完全でもいいので、面接で想定される質問に対して、この方法で台本を書いてみましょう。そして仲間と何度も練習してください。何事も最初の一步を踏み出すのが大切です。さあ、肩に力を抜いて、まずはチャレンジしてみましょう!